日本女子大学
JAPAN WOMEN'S UNIVERSITY

2026 年 11 月 13 日
日本女子大学 広報課

PRESS RELEASE

第 20 回「平塚らいてう賞」受賞者を決定

計 14 件の応募より 3 件（顕彰 1 件、奨励 1 件、特別 1 件）を選出

日本女子大学（東京都文京区、学長：篠原聡子）は、本日 11 月 13 日（金）、団体・研究者・学生の顕彰・奨励を目的とした第 20 回「平塚らいてう賞」の受賞者を決定いたしました。本年は、顕彰 10 件と奨励 4 件の応募があり、厳正な審査の結果、顕彰 1 件、奨励 1 件、特別 1 件を選出いたしました。

■受賞者

[顕彰]　張蕊 氏（東北大学高等大学院機構大学院教育推進センター特任助教）

[奨励]　寺澤優 氏（立命館大学・衣笠総合研究機構客員協力研究員）

[特別]　大阪サクヤヒメ SDGs 研究会

■贈賞式

2026 年 12 月 19 日（土）12:30 から、日本女子大学目白キャンパス新泉山館にて行います。

■選考委員（五十音順）

池上清子　〔公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン理事長、
公益財団法人アジア人口・開発協会副会長〕
差波亜紀子〔日本女子大学文学部歴史文化学科教授〕
田中和子　〔一般社団法人日本女子大学教育文化振興桜楓会理事長〕
永井暁子　〔日本女子大学現代女性キャリア研究所所長〕
林　陽子　〔弁護士、公益財団法人市川房枝記念会女性と政治センター理事長〕

日本女子大学
JAPAN WOMEN'S UNIVERSITY

2026 年 11 月 13 日
日本女子大学 広報課

PRESS RELEASE

■第 20 回「平塚らいてう賞」選考委員発表コメント

第 20 回受賞者の選考にあたり、私どもは候補者の業績を広く、世界の女性のさらなる解放、問題の解決、平和問題や地域社会への公正な目配りと着実な行動の継続という観点から論議し、以下の業績に対して各々「顕彰」「奨励」「特別」に値するとの結論に達しました。ご業績の特色や褒賞に値する観点は下記の通りです。

[顕彰]

張蕊 氏（東北大学高等大学院機構大学院教育推進センター特任助教）

研究・活動テーマ：「近代東アジアにおける女性解放思想と男女共同参画の形成」

受賞理由：

張蕊氏は中国近現代の女性思想の研究者であり、近代中国における知識人・周作人（1885―1967）を研究対象としている。平塚らいてう（1886－1971）と同時代人である周作人は、兄の魯迅とともに来日し、日本の大学で学び、日本人女性と結婚し、山田わか、与謝野晶子らの思想に影響を受けている。

張蕊氏の研究は、周作人が言論人として論じた多くの女性に関わる問題（女性の教育、経済的自立、婚姻や離婚、社会参加など）について、その思想の形成過程と変遷を検討し、近代中国における女性解放思想の中身と実践を明らかにしようとするものである。近代東アジアにおける女性の権利をめぐる思想交流の実態が掘り起こされることが期待される。

張蕊氏はこの研究によりすでに多くの論考を公表され、在籍する東北大学内外の賞も受賞されている。これまでの功績を顕彰し、史資料に正面から取り組む研究がさらに発展することを期待して贈賞する。

[奨励]

寺澤優 氏（立命館大学・衣笠総合研究機構客員協力研究員）

研究・活動テーマ：「共鳴する女性運動：平塚らいてうと私娼解放運動の 1930 年代」

受賞理由：

寺澤優氏の研究テーマは、1930 年代の東京玉ノ井で私娼たちが売春業からの離脱や待遇改善を要求する運動を支援した無産女性運動家の活動を検討するというものである。らいてうはこの種の運動に積極的に関与していないが、売春業への対処法は、経済問題の解決などで需要と供給の双方を減少させていくしかないと考えていた。女性運動家たちが女性の貧困や売買春の問題にどのように取り組んだのかを明らかにし、らいてうの言説との関係を探ろうとする本研究は、本賞の趣旨に叶うものである。

寺澤氏はこれまでに、公娼制度や廃娼運動をめぐる従来の研究ではあまり注目されてこなかった私娼に焦点をあてた研究を行い、公娼制度では満たされない欲求を抱く男性客の増加と、経済的困窮からほぼ強制的に売春業への就業を迫られる女性の増加とがあいまって私娼が増加し、公娼制度に変化をもたらしたことを明らかにしている。そのうえでこのテーマに取り組めば、現代の「セックスワーク・イズ・ワーク」という主張をめぐる議論にも示唆するところがあるのではないかという期待も込め、奨励賞を贈賞する。

[特別]

大阪サクヤヒメ SDGs 研究会

研究・活動テーマ：「女性の力を経済成長へ―意思決定層を変える実践」

受賞理由：

大阪サクヤヒメ SDG s 研究会は、女性活躍と経済発展を一体のものとして捉え、経済界における女性管理職の比率を向上することにより、組織と社会を動かし、新たな価値を生み出すための様々な活動を行っている。活動は世代や職種、国を超えた裾野の広がりを持ち、力強さがある。

EXPO 国際女性会議での提言を提言で終わることなく、「大阪発！女性エグゼクティブ登用プログラム」を創設し 1 期生を迎えた。当研究会会員は企業経営や管理職等の職に就きながら、プログラムを企画し、女性リーダーを増やし、その女性達がさらに次世代を育てるという好循環を実践していることは、民間女性たちの単なるネットワークに留まらない活動であり、選考委員全員で特別賞を決定した。

2026 年度の日本の経済分野におけるジェンダーギャップ指数は 112 位から 119 位へと後退した。さらなる活動の展開を期待する。

その他、詳細につきましては「平塚らいてう賞」ホームページをご覧ください。
https://www.jwu.ac.jp/st/grp/raiteu/

■平塚らいてうについて

平塚らいてうは、1906（明治 39）年に日本女子大学校（現在の日本女子大学）を卒業し、卒業後に発刊した『青鞜』は、日本初の女性だけの手による女性のための文芸雑誌で、女性解放運動の原点となりました。創刊時の「元始、女性は実に太陽であった。」の書き出しは女性解放運動の宣言として知られています。思想家として平和を愛し、女性解放に一生を捧げた女性です。2021 年に没後 50 年を迎えました。

日本女子大学
JAPAN WOMEN'S UNIVERSITY

2026 年 11 月 13 日
日本女子大学 広報課

PRESS RELEASE

日本女子大学は、日本初の組織的な女子高等教育機関として創立し、2021 年に 120 周年を迎えました。私立女子大学唯一の理学部を有し、文理融合の教育環境をもつ女子総合大学です。「私が動く、世界がひらく。」のタグラインのもと、自ら学び、自ら行動し、新しい価値を創造できる人材を育てています。2024 年度は「建築デザイン学部」を開設し、昨年度には「食科学部」を開設、さらに今年度には文学部 2 学科の名称変更をしました。2027 年度には「経済学部」の開設、2028 年度には「ファッションデザイン学部（仮称）」および「人間科学部（仮称）」の開設（構想中）、2029 年度には理学部を発展させた「理工学部（仮称）」の開設（構想中）と、継続して大学改革を進めていきます。詳しくは、 https://www.jwu.ac.jp をご覧ください。

学校法人 | 日本女子大学 法人企画部 広報課内　平塚らいてう賞事務局
〒112-8681 東京都文京区目白台 2-8-1　https://www.jwu.ac.jp/
Phone. 03-5981-3163　e-mail. raiteu@atlas.jwu.ac.jp
Facebook. @Official.JWU Instagram. @japan_womens_university X. @JWU_official